

東日本大震災や市民公益税制の施行によって「寄付元年」と言われる2011年からさらに、寄付に関する動きが加速したのが2012年であった。クラウドファンディングがマスメディアでも頻繁に取り上げられ、また全国各地で「市民コミュニティ財団」（または市民ファンド）設立の動きも活発化するなど、寄付やCBへの投資といった地域循環型の資金には、今後ますます注目が集まると予想される。

当法人の2012年度は、「寄付と助成のプログラム」も2年目に入り、また新たに2つのテーマ型基金もスタート。順調とは言えないものの、着実に寄付受入額が伸びており、年間受入額500万円を超えることができた。また、カンパチャリティや県内企業の募金箱設置協力などの協働も実現したことは、今後のファンドレイズの弾みとなるであろう。

また、実施を重ねてきた「地域円卓会議」が非常に好評で、2012年度は主催・支援を含めて8回を実施し、中には実際の協働事例が生まれたものもあった。

次年度は、引き続き寄付募集支援による資金循環に取り組むとともに、地域円卓会議の開催支援にも注力し、地域でのさまざまな資源・情報の流通に取り組んでいきたい。

1

2012年度の主な活動

累積受入れ寄付金額 1,819万円を達成！

2012年度の受入寄付額 5,170,037円
前年度比 +1,345,353円

- **沖縄NPOデータベースの登録が329団体に**
 - 昨年度末より11団体増加。
 - facebookページでの情報発信も開始。現在415いいね！
- **「寄付と助成のプログラム」採択が通算20事業に**
 - 第3期ばくと 3事業採択 目標額合計 3,650,000円
 - 第4期たくす 4事業採択 目標額合計 13,157,800円
 - 採択事業（団体）を紹介する冊子『寄付なび』を2回発行。
- **テーマ型基金が2つ誕生**
 - 世界若者ウチナンチュ大会支援基金を6月に設置。
 - 沖縄まちと子ども基金を12月に設置。
- **沖縄県「新しい公共支援事業」を受託**
 - (NPO法人まちなか研究所わくわくの事業共同体で受託)
 - 県域市民活動支援基金として「沖縄まちと子ども基金」を設置。
 - カンパチャリティを那覇新都心にて2回開催。のべ39店舗が参加。
- **地域円卓会議が好評！ 8回開催・支援**
 - 6/12「なは円卓会議 with 那覇YEG」を皮切りに8回の開催・支援
 - 那覇だけでなく、名護、宮古、岡山県赤磐市でも。
 - 『沖縄式地域円卓会議開催マニュアル』を発行。
- **ゆめきらきらマグネットを終了**
 - 3年間で累計2356個を販売した。
 - 蓄積した「ゆめきら基金」は、被災地の子どもたちの招待事業へ寄付



プロゴルファー上原彩子さんから
寄付と助成のプログラム採択団体
「こどもの島プロジェクト」へ寄付贈呈



左：『寄付なび』2012秋号
右：『沖縄式地域円卓会議開催マニュアル』

みらいファンド沖縄のミッションとビジョン

社会の共感を育て、資金の循環を促す仕組みの構築

当法人は、沖縄における公益活動団体と、公益活動を支えたい企業、団体、個人等とを橋渡しするため、市民活動の社会的基盤の充実を図り、諸資源の循環をもたらすことで、地域のあらゆる主体が公益を担い、沖縄の未来を支え合う社会の実現に寄与することを目的とする。

(定款第3条)

情報流通

市民活動の情報発信を促進し、市民の“共感”を育む

公益ポータルサイトの運営
ソーシャル・ヒトワク
広報誌等による情報発信
県内外の寄付文化に関する情報収集と発信

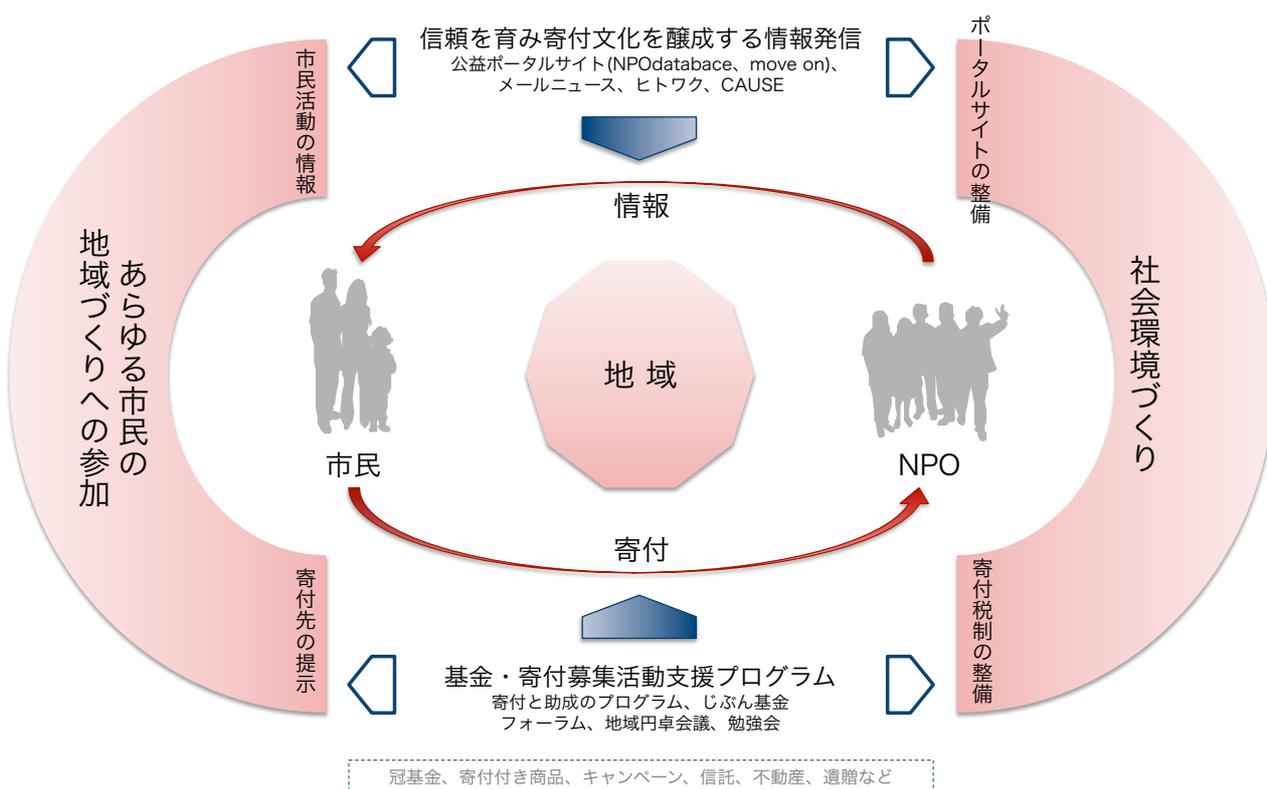
資金循環

“共感”による寄付で、市民活動団体が自律的かつ継続的に活動できる環境づくりをめざす

市民活動を支援する基金の運営
市民活動団体への寄付と助成のプログラム提供
寄付文化を醸成するフォーラム等の開催
他機関の助成プログラム等の支援
企業CSR/CRMの促進

3

みらいファンド沖縄の活動

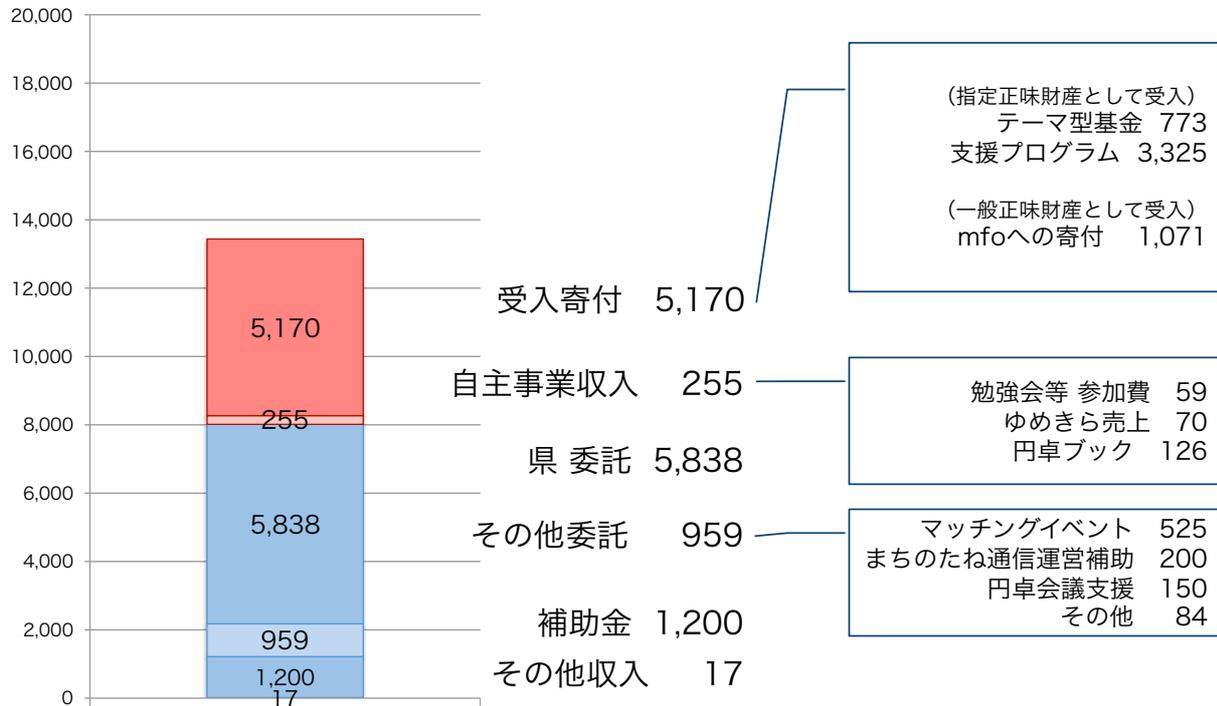


4

収入の部

収入合計 12,358

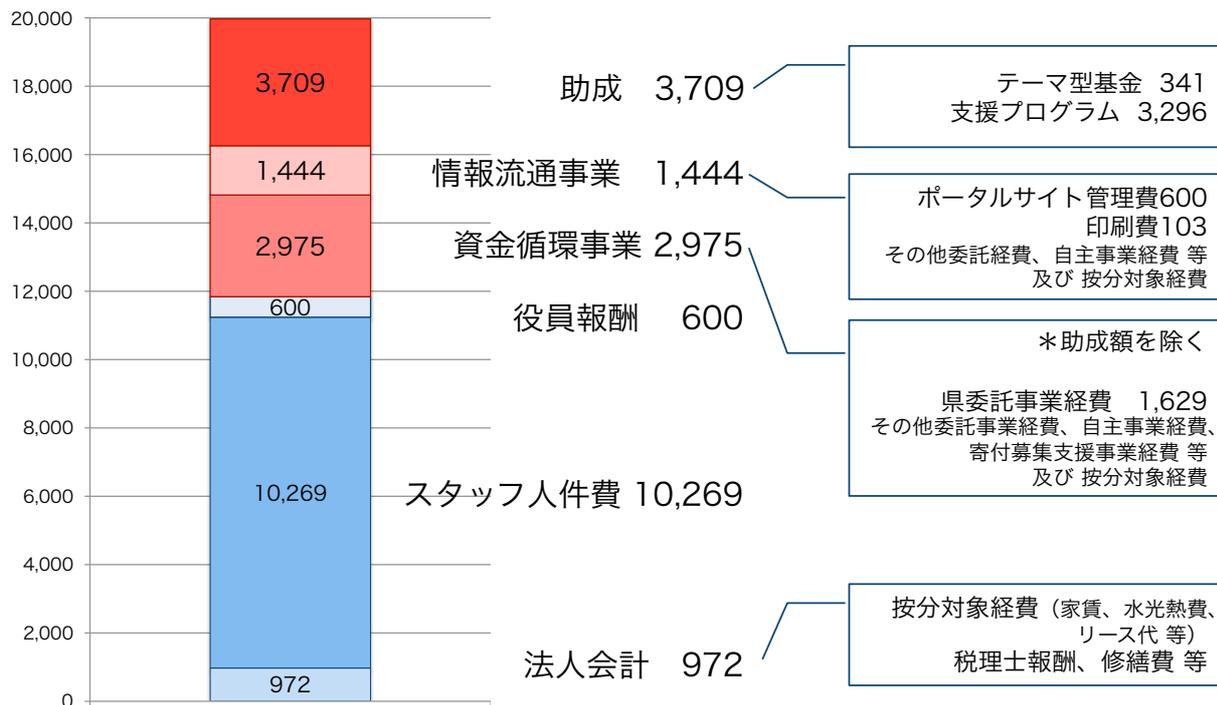
単位：千円（百円以下四捨五入）



支出の部

支出合計 19,969

単位：千円（百円以下四捨五入）



公1 情報流通事業

2012年度の概況

沖縄NPOデータベースを含む公益ポータルサイトとして運営している、当法人のウェブサイトは月間訪問者数は前年比+23.65%、登録NPO数も+11団体であり、活用が伸びている。また、facebookでページを作成したところ、いいね数415を獲得している。さらにメールニュース配信サービスの活用を開始し、受信者数が把握できるようになったが、開始当初目標の1000人まであと一歩のところまで増えている。

web site、facebook、メールニュースにおいて、それぞれの特性を活かした情報発信をしたことによって、当法人の情報にアクセスする人が増加しているのは良い傾向だと考える。

また、市民レポーターによるケータイ写真投稿サイト「まちのたね通信」が、NPOの情報発信に役立つと考えた他県から、技術移転の依頼があり、愛知県への移転について「まちのたね通信」に協力をした。被災地である宮城県からの移転の打診もあり、次年度の調整にも協力する予定である。しかし、県内での展開は停滞傾向であり、これにはfacebookの普及による影響が少なくない。

広報誌『CAUSE』については昨年度で那覇市からの委託終了で資金的目処が立たず、当年度は休刊した。しかし、問合せの多い地域円卓会議を紹介する『沖縄式地域円卓会議開催マニュアル』を発行したところ、たいへん好評を得ている。

「公1 情報流通事業」は資金の調達に難しい構造になっており、今後はブックレットの発行等、新しい事業資金の調達方法を考えていく必要があると考える。

2013年度 方針

NPOデータベースの登録を引き続き促進し、既存の登録についても情報の充実を図り、NPOの信用向上に寄与することをめざす。また、公益認定の変更等を視野に入れた、事業全体の見直しを図る。

7

公1 情報流通事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期	事業の概要
公1 -(1)	公益ポータルの運営	通年	公益活動団体の信頼を育む情報発信をインターネット上で行う。 NPOデータベース登録数：現在329団体（11団体増） 年間閲覧数：訪問数60,215（+23.65%）、 ユニークユーザー数41,207（+31.56%）、 ページビュー数133,225（+5.21%）
公1 -(2)	他機関連携・情報収集	—	全国の動向を知り、沖縄での寄付文化醸成に寄与するため、各機関の研修やフォーラムへ参加した。 ・おきなわ市民活動支援会議へ参加（月1回） ・11/10 日本財団公益ポータル連絡会 ・11/10-11 JICA沖縄フェスティバル（ブース出展） ・11/11 日本財団「出身地のためにできることセミナー」 ・全国市民コミュニティ財団集合研修 （8/25-16 千葉、10/18-19 岡山、12/17-18茨城、 1/13 名古屋、3/7-9 沖縄） ・3/7 NSR研修会（主催：日本財団、IIHOE） など



全国市民コミュニティ財団集合研修@那覇のようす

* 公1-(3)フォトレポーターサミット については当年度は実施していない

8

公1 情報流通事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期	事業の概要
公1 -(4)	ソーシャル・ヒトワクの放送	通年 NPO-月2本程度 CSR-月2本程度 再放送あり	NPOの活動紹介と、企業とNPOの協働事例を紹介するトーク番組をタイフーンfm (78.0MHz) で放送した。 NPOヒトワク- 放送回数21回 (通算76回) CSRヒトワク- 放送回数18回 (通算56回) *3/17実施「マッチングイベント」では、事例紹介映像として「CSRヒトワク傑作選」を製作し、会場にて展示上映した。
公1 -(5)	広報誌の発行	3月	広報誌『CAUSE』は当年度は休刊した。初のブックレット『沖縄式地域円卓会議開催マニュアル』を3月に発行した。年度内の申込み数は、71部。 ブックレット『沖縄式地域円卓会議開催マニュアル』の表紙
公1 -(5)	メールニュースの発行	通年 定期配信-月1回 臨時号は適宜	イベントや助成金の情報、mfoの支援NPOの紹介等を行うメールニュースを発行した。イベント直前等に臨時号を発行している。メールニュース発行回数16回 (通算37回) 登録者数 926人 なお、今年度より「ブレイクメール」という配信システムを利用開始し、名刺交換等だけでなく、関心を持った方が任意で登録できるようにした。



* 公1-(3)フォトレポーターサミット については当年度は実施していない

9

公2 資金循環事業

2012年度の概況

「寄付と助成のプログラム」では第1期と第2期が寄付募集活動支援期間が終了した。合計14事業のうち目標額達成は2事業に留まったが、それぞれの団体でモチベーションの持ち方や人的資源が異なり、それぞれに適したファンドレイズの手法を提案する必要があることを痛感した。

テーマ型基金として「世界若者ウチナンチュ大会支援基金」「沖縄まちと子ども基金」の2つを設置することができた。いずれも沖縄において重要かつ特徴的な基金であり、今後の展開に期待できるとともに、重責を感じるところである。

2010年度より開催を重ねてきた「地域円卓会議」は好評で、当年度は大小合わせて県内で7回、県外でも1回の開催に関わった。テーマは地域づくりや福祉、伝統食材(魚)、教育など、多様なもの・分野があったが、それぞれで対話を促すことに貢献できたこと、また課題の具体的な解決に取り組む協働事例が生まれたことは、大きな成果であろう。

また前年度に続き、沖縄県「新しい公共支援事業」を、NPO法人まちなか研究所わくわくと事業共同体を組み、「新しい公共の人材育成と資金循環の持続可能なしくみ構築事業」を受託。当法人は「沖縄県市民活動支援基金(仮称)の創設」と、それに付随してカンパイチャリティを中心とするチャリティプログラムの開発と実施を担当した。その結果「沖縄まちと子ども基金」を設置し、また、那覇新都心通り会飲食部会との協働で、カンパイチャリティを2回開催することができた。

なお、「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」と「ゆめきらきらマグネット」を、一定の役割を果たしたことから、当年度をもって終了した。

2013年度 方針 「寄付と助成のプログラム」の採択団体とともに、目標寄付額の達成をめざす。また、地域円卓会議等の開催を通じ、地域での協働を促し、寄付だけでなく地域資源の循環に、引き続き取り組む。

10

公2 資金循環事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 - (1)	世界若者ウチナンチュ大会 支援基金	6月設置	助成指定先：世界若者ウチナンチュ連合沖縄本部 寄付受入額 431,183円 助成金は、7月に開催されたブラジル大会開催費・渡航費として役立てられた。
公2 - (1)	沖縄県市民活動支援基金 (仮称) に関する事業 *沖縄県新しい公共支援事業を受託	運営委員会 7～3月 設立記念フォーラム 12月開催	県域市民ファンドの創設をめざし、運営委を当年度内に3回開催し、「沖縄まちと子ども基金」を設置に至った。 12/8には、設立記念フォーラムを開催。出演者・参加者を慌て39名が参加した。(会場は那覇市職員厚生会館 多目的ホール) また、第3回委員会は、助成選考会を兼ねた。  フォーラムのようす
公2 - (1)	沖縄まちと子ども基金	12月設置	助成先：公募 寄付受入額 342,294円 助成交付額 (2013年度に実施) 2013年度助成プログラムの選考会を3/26に開催し、申請2件、採択2件、助成総額40万円とすることが決定した。 また、ファンドレイズに、沖縄ファミリーマートが店頭募金箱で協力くださり、約59万円が2013年4月に寄付される予定。

* 公2-(4)キャンペーン型基金については当年度は実施していない

11

公2 資金循環事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 - (2)	寄付と助成のプログラム 第1期ぱくと	寄付募集支援期間 2011年9月～ 2012年8月 終了	8事業を採択 寄付募集目標総額 3,560,000円 当年度の受付寄付総額 181,930円 (通算1,365,930円)
公2 - (2)	寄付と助成のプログラム 第2期たくす	寄付募集支援期間 2012年3月～ 2013年2月 終了	6事業を採択 (うち1事業が途中辞退) 寄付募集目標総額 13,158,000円 当年度の受付寄付総額 1,315,336円 (通算1,326,836円) *カンパイヤリティで指定があったため2団体は追加あり
公2 - (2)	寄付と助成のプログラム 第3期ぱくと	寄付募集支援期間 2012年9月～ 2013年8月 期間中	3事業を採択 (申請3件) 寄付募集目標総額 2,185,000円 当年度の受付寄付総額 1,419,100円 *採択事業 (団体) を紹介する冊子『寄付なび2012秋』を発行
公2 - (2)	寄付と助成のプログラム 第4期たくす	寄付募集支援期間 2013年3月～ 2014年2月 期間中	4事業を採択 (申請5件) 2事業が第2期継続、2事業が過去採択団体 寄付募集目標総額 5,898,300円 当年度の受付寄付総額 90,000円 *採択事業 (団体) を紹介する冊子『寄付なび2013春』を発行

寄付と助成のプログラム系の
寄付受入金額 当年度合計 2,799,366円

12

公2 資金循環事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期等	事業の概要
公2 -(2)	寄付と助成のプログラム 支援プログラム  ゼミのようす	通年	公募及び選考 年2回（第3期6月～8月、第4期12月～2月） 採択団体向けガイダンス 年2回 ゼミ（採択団体勉強会） ・6/4「CANPAN×NPO」 講師 高島友和 氏 ・12/5「ファンドレイザーというお仕事」 講師 小橋川繁 氏 『寄付なび』の発行 2回 終了時ヒアリングとアンケートの実施
公2 -(3)	じぶん基金 沖縄離島バドミントン基金	通年 *3年目	当年度受付寄付額 149,000円 通算寄付受付額 1,079,400円 通算35回の講習会に助成・運営支援。受講した子どものべ人数は1400名を超えた。
公2 -(3)	じぶん基金 沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金	通年 *3年目 助成は8月公募 9月に交付 11月の報告会をもって終了	当年度受付寄付額 170,000円 通算寄付受付額 973,772円 SIFEワールドカップ（今年はワシントンDC）への視察渡航費として1名の学生に助成。通算6名。 コンダクター（基金主催者）が就職しファンドレイズに取り組みなくなったこと、また過去派遣の学生が自主的にSIFEへの巻き込みに取り組みはじめたことから、本基金を11月に開催した報告会をもって終了した。終了時に座談会を開催し、報告書を取りまとめた。

* 公2-(4)キャンペーン型基金については当年度は実施していない

13

公2 資金循環事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期等	事業概要
公2 -(5)	他機関支援 マッチングイベント 相談ブースの担当 *NPO法人アートリンクからの委託事業	3/17 イオン南風原	「NPO等と企業・県民のマッチングイベント」の一環として、相談ブースと映像製作を受注。映像は、寄付税制の紹介と、協働事例の紹介としてCSRヒトワク傑作選の2本を製作し、イベント当日会場モニターで上映した。
公2 -(5)	他機関支援 ピッコも社会貢献版の運営支援 *新しい地域力創造研究所との協働事業	12月スタート	株式会社OTO（仙台市）が運営するクーポンシステム「ピッコも」を活用した、社会貢献システムの運営を支援した。実質は次年度から本格的になっていく計画である。 具体的な協働（支援）の内容： ・クーポン広告費の一部寄付の仕組みについて助言 ・寄付先NPOの推薦（＝寄付と助成のプログラム採択団体） ・（次年度以降）システム利用企業とNPOの交流勉強会の開催
公2 -(6)	地域円卓会議の開催・支援	8回 県内7回 県外1回 (番外編1回)	地域の社会的課題の解決のための対話の場である「地域円卓会議」の開催・支援を行った。 6/12 なは円卓会議 with 那覇YEG 8/9 なご円卓会議 11/24 (岡山県赤磐市) 市民活動支援フォーラム 1/13 サイエンスキャラバン シマ会議 2/1 ミーバイ円卓会議 2/16 地域の「つなぎ手」人材育成を考える円卓会議 3/1 地域イベント情報円卓会議 3/8 YEG全国大会 地域のみらいを作る円卓会議 *番外編として、食育イベント「ベジスタ」の中で実施された「こどもみらい円卓会議」を監修



地域円卓会議のようす

14

公2 資金循環事業 実施した事業

区分	事業名	実施時期等	事業概要
公2 -(6)	主催勉強会の開催	第6回 12/7	寄付や社会貢献に関するさまざまな情報を、広く共有するための勉強会を、当年度は1回開催した。 [第6回]新寄付税制 @九州沖縄トラック研修会館 講師：関口宏聡氏（シーズ）、大城逸子氏（税理士）
公2 -(7)	寄付付き商品の振興 ゆめきらきらマグネット	通年 *当年度で事業を終了	市民が買い物という日常的行動を通じた社会貢献として注目される寄付付き商品の紹介と促進のため、参考事例として取扱ってきた。当年度は、合計329個（通算2356個販売）。6団体の障がい者作業所にて製造。 なお、売上の一部を3年間積み立ててきた「ゆめきら基金」は、6団体の合議により、「寄付と助成のプログラム」採択事業「こどもの島沖縄東北交流体験プロジェクト」へ寄付された。 寄付贈呈式の様子
公2 -(7)	寄付付き商品の振興 カンパチャリティの開催 *沖縄県新しい公共支援事業として受託	第1弾 9月 第2弾 3月	飲食店とともに取り組むチャリティキャンペーンを開催した。2回とも那覇新都心通り会飲食部会との協働により開催した。 [第1弾]参加10店舗 2,254カンバイ 84,000円の寄付 寄付先は通り会で一括して指定された「寄付と助成のプログラム」採択事業「音楽交流による被災地支援事業」 [第2弾]参加29店舗 カンバイ数、寄付額は集計中 寄付先は各店舗で指定した、当法人が運営・支援する8つの基金・指定事業とmfo運営。

15

その他（法人運営等）

2012年度の概況

監事の中村氏と城間氏が、前年度監査の終了後に退任し、新たに、名城佳枝と山崎新を迎えた。事務局体制では、1月より1名がNPO法人まちなか研究所わくわくへ出向。これは財政難のための措置である。この出向者を含め2名のスタッフが当年度末をもって退職した。

当法人自らもファンドレイズに取り組む姿勢を持つことが重要と考え、チャリティボーリング大会を実施した。これは、かねてより当法人に対し大きな声援を送ってくださっていた方が中心に結成された「みらいファンド沖縄支援会」が開催に尽力くださった。

前年度に那覇市「地域づくり・公益活動支援事業」が終了し、当年度からスタッフの人件費や、主要事業が自主運営になった。寄付受入は着実に伸びてはいるものの、十分に雇用を確保するには至らず、非常に苦しい財政状況となり、拠出金の一部を取り崩して対応した。次年度にはこの分を元に戻すため、予算の縮減に着手し、事業の新規開拓を行っていく予定である。

また前年度からの懸案事項であるが、現在の事業体系は、那覇市委託事業を元に計画したが、会計上、公1と公2のバランスが良くないことが、事業を進める中で分かってきたこと、また3年目の当年度、これまでの経験と周囲からの評価によって、今後力点を置くべき事業も見えてきたことから、次年度は公益認定の変更申請に本格的に着手する必要があると感じられる。

2013年度 方針

基金事業が軌道に乗るにはまだ時間が必要であるため、委託・助成等の資金獲得により、運営資金を確保する。公益認定の変更申請を視野に入れた、事業体系の見直しに着手し、2013年度または2014年度中の申請をめざす。

16

受入れ寄付額と助成の実績

	法人設立当初の 受入寄付 年間目標額	受入寄付 年度達成額	受入寄付 累積達成額	助成金交付 年度実施額	備考
2010 (1年目)	200万円	9,197,780円	9,197,780円	5,755,250円	・受入寄付額には拠出金を含む ・震災関連寄付を含む
2011 (2年目)	1000万円	3,824,684円	13,022,838円	2,427,218円	・受入寄付額にはみらいファンド沖縄への寄付を含む ・震災関連寄付を含む
2012 (3年目)	2000万円	5,170,037円	18,194,341円	3,709,315円	・受入寄付額にはみらいファンド沖縄への寄付を含む

	受入寄付 年間目標額	受入寄付 年度達成額	受入寄付 累積達成額	助成金交付 年度 目標額	備考
2013 (4年目)	3000万円	—	—	2250万円	
2014 (5年目)	5000万円	—	—	4250万円	
2015 (6年目)	1億円	—	—	8500万円	

17

略年表

年度	みらいファンド沖縄の主なできごと	社会の主なできごと
2009 H21	・キックオフフォーラム	・衆議院選挙で民主党圧勝 ・裁判員制度施行
2010 H22	・法人設立 ・那覇市「地域づくり・公益活動支援事業」受託 ・「じぶん基金」プログラム2基金スタート ・沖縄NPOデータベース公開	・普天間基地の辺野古移転が白紙に ・沖縄県民税の寄附金控除対象法人が拡大 ・「新しい公共」円卓会議 ・11月 仲井真知事 再選 ・12月 ISO26000発効 ・3/11 東日本大震災
2011 H23	・公益財団法人化 ・「寄付と助成のプログラム」スタート ・H23「沖縄県新しい公共支援事業」受託 ・クレジットカード決済スタート ・PSTをクリアし、税額控除認定を受ける	・6月 新しい市民公益税制が成立 ・6月 改正NPO法が成立 ・7月 なでしこジャパン FIFA杯優勝 ・10月 世界のウチナーンチュ大会
2012 H24	・H24沖縄県「新しい公共支援事業」受託 ・「世界若者ウチナーンチュ大会支援基金」設置 ・カンバイチャリティを開催 ・「沖縄まちと子ども基金」設置	・4月 新認定NPO法人制度スタート ・8月 ロンドンオリンピック ・11月 那覇市長に翁長氏が4選 ・12月 衆議院選挙で自民党圧勝 ・2月 浦添市にNPO出身の市長が誕生
2013 H25 (予定)	・4月 事務局をタイフーンfm内に移転	・9月 FIFA杯 モロッコ大会 ・11月 旧民法法人の移行特措期間終了

18